

自分を奮い立たせる

子どもたちの未来のために

凶悪な事件にも怯まず、



西澤寛 さん (1993年生まれ)
安城南高校 出身

企業
情報

愛知県警察本部

名古屋市中区三の丸2丁目1-1
<https://www.pref.aichi.jp/police/>

出身
大学

中部大学

工学部
<https://www.chubu.ac.jp>



— 学生時代 —

「高校時代は野球部に所属していました。毎日とても厳しい練習でしたが、目標だった県大会に出場することができました。部活動では仲間との絆を築きチームワークの大切さを学びました。『自分ひとりではできないことも仲間と一緒にならできる』ということを警察官になった今でも感じる人が多いです。また報告、連絡、相談が身につけているのは、高校時代の部活動の経験が影響していると思います」

大学時代のことを教えてください。

「いろいろな経験を積みたいと考えていたので、積極的にボランティア活動に参加したことが思い出に残っています。少年警察ボランティアに参加した際は、非行に走ってしまった少年と出会いました。話をしてみると、どこにでもある普通の少年。こういった少年が非行に走ってしまった原因をなくし、明るい未来を守りたいという思いが芽生え、警察官を志すようになりました。大学が開講している公務員教養対策講座のおかげで出題傾向に合わせた効率的な勉強ができ、目標だった警察官になることができました」

— 仕事について —

「最初は交番に配属され、遺失物・拾得物の処理や交通事故の対応、職務質問、巡回連絡など、様々な事案を対応します。私はその後、空港警備隊に配属され、警備や保安検査など



の業務を行いました。現在は地域課巡査長として、地域住民のみなさんが安心して生活できるよう日々の仕事に取り組んでいます」

印象に残っているエピソードを教えてください。

「近年は高齢者を狙った特殊詐欺がとても多いです。銀行から多額の出金をしようとしている高齢者の情報があったため話を伺ったところ、当初は不自然なところもなく、問題ないと納得しかけていました。でも、どこかにほんの少しだけ違和感があり、その後も親身になって話を聞き続けました。するとだんだん違和感が濃くなり、最終的にはそれが詐欺であることが判明しました。事件を未然に防ぐことができ、非常に感謝されうれしかったことを覚えています」

— やりがい —

「地域住民の方から、感謝の言葉をかけてもらえることが一番のやりがいですね。パトロールをしていると、子どもが手を振ってくれたり、敬礼をしてくれたりすることもある

ります。そんな子どもたちの未来のために、自分を奮い立たせて頑張っています」

— メッセージ —

「私は、部活動を通してチームワークの大切さを学びました。警察官をめざしたきっかけは、大学のボランティア。みなさんもういろいろ経験をして、将来のビジョンを固めていくってください。警察官は、国や地域の未来のために働けるとても有意義な仕事だと私は思います。警察官をめざす方は、志を大きくもって夢に向かって頑張ってください！ありがとうございます。」



18歳

↓

22歳

↓

現在

部活を通してチームワークの大切さを学ぶ。卒業後、中部大学に進学。

少年警察のボランティアに参加し、警察官を志す。

地域の安全と子どもたちの未来のために、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



前向きに過ごせるような関わりを

自分を認めることができ、

『自分らしくあっていいんだ』と



吉田晃己 さん(2005年生まれ)
猿投農林高校 出身

慈恵福祉保育専門学校
保育学科
<https://jikei-f.sakura-g.ac.jp>



企業
情報

社会福祉法人那爛陀学苑
名古屋市緑区大清水三丁目1003番地
<https://nalanda-gakuen.com>

— 学生時代

「保育士の仕事をめざしたのは、中学のころです。あきらめていた時期もありましたが、『どうせ働くなら自分がやりたいことをやろう!』と進路選択のときに決心し、慈恵福祉保育専門学校に進学しました。実践的な授業が多く、現場で役立つ力が身につけられると感じたことが進学を決め手です」

「専門時代について教えてください。」

「座学では、子どもの成長段階や言語・心理の発達を学びました。事例ごとの対応をディスカッションする授業が印象に残っています。様々な意見を聞いたことで広い視点がもてるようになったと思います。特に養護施設での実習は印象的で、授業で学んだ内容が目の前で現実として起きており、今まで知らなかった世界を体感する機会になりました。私の中にあつた『子どもと1対1でしっかりと向き合いたい』という思いがさらに強くなりました」

— 仕事について

「児童養護施設『那爛陀学苑』で働いています。様々な事情で保護者と暮らせない子どもたちの生活の場として養育し、自立と成長を支援する場所です。私たちは身の回りのことを一緒にこないながら、子ども自身が『自分らしくあっていいんだ』と自分を認めることができ、前向きに安心して過ごせるような関わりを心がけています。そのために、

— やりがい

「子どもたちが元気に『ただいま!』と帰ってきてくれること、『いつてらっしゃい』と送り出せることがやりがいです。名前を呼んで話しかけてくれる子どもたちの笑顔もやりがいにつながっています。できなかったことが少しずつできるようになる成長を間近で見られるのも、この仕事ならではの、日々の小さな成長が大きくなる喜びです」



「具体的な活動を教えてください。」

「掃除や洗濯、調理など家事全般をおこないながら、子どもたちの生活リズムを整え、自立に向けたサポートをしています。朝ご飯を作り、食事後に子どもたちを学校へ送り出します。日中は掃除や環境整備、服の補修などをおこない、子どもたちの帰宅を待ちます。夕方は宿題を見たり、自由時間には一緒に遊んだり、まさに親代わりとして日々をともに過ごしています」

— メッセージ

「専門学校や短大、大学で学び、保育士資格を取得するのが一般的です。私は、保育士資格と幼稚園教諭免許を取得しました。慈恵福祉保育専門学校は、想像以上に先生と学生の距離が近く、わからないことや不安なことを相談しやすい環境でした。実習で心が折れそうなきも支えになつてくれたのが先生です。先生方の姿から、人との関わり方も学ぶことができました。学生時代は、限られた友達だけでなく、幅広い人と関わって視野を広げてほしいです!」

ありがとうございました。



自分
の
安
心

18歳 学校行事に全力で取り組み、楽しい高校生活を送る。
↓
19歳 慈恵福祉保育専門学校に進学。子どもの成長段階や、事例ごとの対応について学ぶ。
↓
20歳 子どもたちが自分らしく成長できるよう関わりを大切に、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!
<http://amb100search.com>





料理で演出する

お客様が過ごす華やかな時間を、

鈴木勇吾 さん (1977年生まれ)

愛知産業大学三河高校 出身
辻調理師専門学校 卒業

企業
情報

Yughino Yugo / ユギーノ・ユーゴ

岡崎市本宿町南中町10-4
<https://yughino.com>

——学生時代

「高校は特進クラスに所属していたものの、行きたい大学もなく、将来の目標をもてずにいました。そんななか、ある企業の会長と話をする機会があり、それから『自分は何が好きか?』を考えて将来を見据えるようになりました。当時は美術に興味があり、美に通じるものを料理に感じたことがこの道に進んだきっかけです。卒業後は、辻調理師専門学校に進学しました。専門学校では、栄養学や調理理論、和食・洋食・中華の調理の基礎を学びました」

——仕事について

「専門学校卒業後、大阪・京都のレストランで修行し、25才のときに師匠から話をいただいてイタリアへ渡りました。下積み時代に学んだのは、納得がいかなくても嫌なことでも、前向きに捉えるポジティブ思考の大切さ。与えられた仕事だけだと成長に限りがあるので、休日にはひたすら料理の本を見てレシピを考えたりと、とにかく何事にも興味をもって背を向けずに勉強しました」

お店をオープンする経緯は?

「イタリアで4年ほど修業して帰国し、東京のイタリア政府公認レストラン『ラ・ビッソッチャ』の料理長を経て、地元岡崎に戻りました。現在は、国の登録有形文化財の旧代官屋敷を改装したイタリアンレストラン『ユギーノ・ユーゴ』のオーナーシェフとして働いています」



現在の仕事内容を教えてください。

「これまで、10店舗以上のお店で料理、ワイン、接客を学んできました。これは私の価値観ですが、お客様の満足度は接客が5割を占めていて、料理が3割、空間の付加価値が2割だと感じています。お客様が主役で、あくまでも料理は脇役。お客様が過ごす華やかな時間を、料理で演出することが私の仕事です。接客面も、型にはまったものではなく、自分らしさが出た接客をスタッフにも共有しています」

——やりがい

「理想は、お客様が帰るときに『おいしかった。また来よう!』と思ってもらえることです。お客様の笑顔や喜びの言葉も、やりがいに繋がっています。でもそれは、おいしい料理を作るだけでは無理。接客や空間含め、課題を見つけては試行錯誤をする日々です。それがモチベーションにもつながっていると思います」

——メッセージ

「簡単に辞めていく人が多い業界なので、みなさんいい意味でもっとバ

力になってもいい気がします。私も何も考えず、『この道しかない!』って進んでただけです。仮に自分が思い描いていた環境と違っても、前向きな姿勢で取り組むことが大切。調理ではなくホールに配属されても接客の勉強になりますし、イタリアンだけじゃなくて中華料理の経験は料理の幅を広げてくれます。ただ受け身でやらされるのではなく、何かを吸収する姿勢を大切にしてください。高校時代の勉強も一緒にです。まずは目の前に一生涯命取り組んでください!」

ありがとうございました。



18歳
↓
25歳
↓
34歳

高校卒業後、辻調理師専門学校に進学。料理の道に進む。

関西のレストラン勤務を経て、イタリアへ渡る。

イタリアから帰国後、東京で料理長の経験を経て、地元岡崎に戻り自身の飲食店をオープン。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



仕事のやりがい

誰かの生活を支えていることが

自動車の安全を通し、



杉浦明日香さん(2000年生まれ)
幸田高校 出身

企業
情報

株式会社鈴木化学工業所
額田郡幸田町大字六栗字左右作 2-1
<https://www.sunstaff.co.jp>

——学生時代

「高校時代は、ボランティア部に所属し、地域イベントで着ぐるみを着たり、街の清掃活動に参加したりしました。文化祭の実行委員として、みんなでひとつのものを作り上げた経験も思い出に残っています」

進路について教えてください。

「将来のことは深く考えていませんでしたが、早く自立したくて就職を選びました。地元企業で探していたので、鈴木化学工業所の求人票を見つけて工場を見学。内も外もきれいで、女性の比率が多く、働きやすい雰囲気に惹かれたことが決め手です。高校卒業後、樹脂成形と溶着をコア技術にもち、燃料系精密部品とタンクアセンブリーなどの自動車部品の製造をおこなう鈴木化学工業所に就職しました」

——仕事について

「入社後は、研修を経て仕上課に配属されました。最初に教わったのは、日報の書き方や機械の点検、プラスチック同士をくっつける簡単な溶着作業などからです。まったく知識も技術のない状況からのスタートだったので、覚えることがたくさんあって大変でしたが、先輩が優しく教えてくれたので、少しずつ吸収して慣れていくことができました」

現在の仕事内容を教えてください。

「今は主にトラック用のオイルタンクを担当し、部品の組み付けまで任されています。仕事の難易度も少しずつ上がっています。ほかにも、作業者が働きやすくなるように改善を考えたり、現場作業以外にも力を入れています」

現在の仕事内容を教えてください。

「私たちが製造している製品は、『走る』『曲がる』『止まる』など、自動車の基本性能に関わるものです。つまり、人の命に関わるパーツ。自動車の『安全』を支える仕事です。心がけているのは、日々の作業に慣れすぎず、常に緊張感をもって取り組むこと。仕事の慣れからくる油断が、不良やミスにつながらないように意識しています」

——やりがい

「自動車は、『人の生活に欠かせない存在』なので、そうした基本性能に関わる作業に携われていることがうれしいです。1日の作業をやりきったときの達成感もありますし、自分の仕事で誰かの生活を支えていると思うとやりがいを感じます」

——メッセージ

「この仕事に就くのに特別な資格は必要ありません。社会人になると学生のころとは違って、いろんな年代や性格の人と関わる機会が多くなるので、資格よりも協調性が大切だと感じます。私は特に笑顔とあいさつを心がけています。結局、そういう基本的なことが一番大事だと思います。みなさんには、部活や勉強、文化祭や体育祭、みんなでのひとつのものを作り上げることなど、高校時代にしかできない経験を大切にしてください」

ありがとうございました。



自分
の
安
心

18歳
↓
19歳
↓
24歳
友達とあんそだり、文化祭の実行委員を経験したことが思い出に。
高校卒業後、鈴木化学工業所に就職。1から知識と技術を学ぶ。
自動車の基本性能に関わる部品に携わり、自動車の安全を支える。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



全体を把握して視野を広くもち、
みんなが働きやすい環境をつくる



加古満梨奈さん(1999年生まれ)
愛知教育大附属高校 出身

出身
大学

名城大学

農学部応用生物化学科卒業
<https://www.meijo-u.ac.jp>



企業
情報

桂新堂株式会社

名古屋市中区金山1-14-18 A-PLACE 金山5階
<https://keishindo-shop.com>

――学生時代――

「中学までは同級生との関わりが中心だったので、高校で所属したテニス部で初めて先輩後輩との関わりをもちました。部活を通して上下関係を学ぶことができました。勉強面で得意だった科目は数学や化学です。得意なことをいかせる道に進みたいと思い、当時は漠然と化学系の仕事に就きたいと考えていました」
大学時代について教えてください。
「高校卒業後は、名城大学に進学しました。生物や化学を基盤にして、生命・食品・医薬品、化粧品・科学について学びました。ペーコンやハムを実習で作ったり、化学実験を行ったりと幅広い経験をしました。座学で学んだHACCPや食品成分についての知識は、今の仕事につながる部分もあります。研究室は生物物理化学を専門としていて、私はヨーグルトの発酵熱に関する研究を行っていました」

――仕事について――

「桂新堂に就職したのは、勤務スタイルが自分に合っていたことと、大学で食品について学んだことで食品業界に興味をもち、そして、えびせんべいが好きだったことが決め手となりました。入社後の研修では、製造から包装、箱詰め、出荷まで一連の流れを学びました。全体の流れを理解したうえで仕事を進めることで、次の作業を見越した判断や行動ができるようになりました」



現在の活動内容を教えてください。

「現在のは手焼き工場の生産管理を担当し、多くの製造スタッフと協力して安心安全で美味しいお菓子を作ることが私の仕事です。プリントせんべい、「こんがりえびチーズ」名古屋えび天などの包装を担当し、生産予定数に合わせた人員配置やシフト管理、包装機械の設定・調整などを行っています。大切にしているのは、製造スタッフが働きやすい環境をつくること。みんなの意見や要望にはしっかりと耳を傾け、作業がしやすくなるよう改善活動を行っています。また、指示は的確に、いい言葉つかいで伝えるようにも意識しています」

――やりがい――

「製造スタッフからの要望をもとに改善を行い、「作業しやすくなった」という声が出たときや、生産効率が上がったときにやりがいを感じます。家族や友人から『美味しい』と言ってもらえたり、駅で弊社の袋を見かけたときにも喜びを感じ、やりがいにつながっています」

――メッセージ――

「この仕事は、たくさんの方のスタッフと関わりながら進めることが多いので、コミュニケーション力や全体を把握する視野の広さが求められると思います。私は学生時代にボランティア活動をしていました。この活動を通して、初対面の人と協力して何かに取り組んだ経験が仕事でも役立っていると感じます。社会に出ると自由な時間が少なくなるので、今のうちに趣味や自分の好きなことに時間を使って楽しい学生時代を過ごしてください！」
ありがとうございました。



自分
年代

18歳

22歳

現在

得意だった分野をいかしたいと思い、名城大学応用生物化学科に進学。

勤務スタイルと業務内容が自分に合っていると感じ、桂新堂に就職。

スタッフが働きやすい環境づくりに意識し、美味しいせんべいづくりに取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



常に新しい知識を
吸収する姿勢を忘れない



鵜飼陽奈子さん(2003年生まれ)
人間環境大学附属岡崎高校 出身

慈恵歯科医療ファッション専門学校

医療事務学科
<https://jikei.sakura-g.ac.jp>



企業
情報

西尾市民病院

西尾市熊味町上泡原6
<https://hospital.city.nishio.aichi.jp>

——学生時代

「この仕事に興味を持ったのは、高校生のときに手術をした際に支えてくれた医療事務の方が優しかったことがきっかけです。高校で慈恵歯科医療ファッション専門学校の方と話す機会があり、少人数制の授業、様々な資格を取得できることを知りました。その後、オープンキャンパスに参加し、先輩や先生の姿を見て、ここなら自分らしく学べると感じたことが決め手です」

専門時代について教えてください。

「医師事務作業や調剤事務など医療事務の知識や技術を学び、レポートの書き方やパソコン入力など、社会に出たあとも役立つ知識が身に付きました。印象に残っているのは2年次の長期実習。どのような流れで実際の医療現場が動いているのかを体験することができました。学校で学んできた知識や技術などの『点』を『線』につなげることができ、より理解を深められたと思います」

取得資格について教えてください。

「診療報酬事務能力認定試験、医師事務作業補助者など、医療事務関連の資格以外にも、介護職員初任者研修などの介護系の資格、サービス接遇実務検定、秘書技能検定などの資格を取得しました。幅広い知識や技術を習得できたことで、将来の選択肢の幅を広げられたと思います」

——仕事について

「医療事務は、医療機関で患者さん

——メッセージ



の受付、会計、医療費の計算、診療報酬請求などを行う仕事です。正確な事務処理、保険制度の知識が求められます。私は西尾市民病院に就職し、現在は主にカルテ開示の業務を担当しています」

仕事内容を簡単に教えてください。

「カルテ開示は、患者さんやご家族、裁判所、法律事務所などから依頼が来ます。患者さん対応時には、誤解を招かないようにあいまいな表現は避け、難しい医療用語や専門用語を噛み砕いて、わかりやすく適切な説明を心掛けています。病院の印象を左右するポジションなので、正しい対応を意識しています」

——やりがい

「患者さんからの『ありがとう』という言葉にやりがいを感じます。将来的に、私は病院経営で重要な施設基準を管理する立場を目指しています。そのために、病院運営に関わる法律や基準などの勉強をしています。医療事務に関する法律や制度改正も定期的にあるので、常に新しい知識を吸収する姿勢を忘れないようにしています」



自分
の
年
代

17歳

↓

20歳

↓

22歳

自身の手術をきっかけに、医療事務の仕事に興味をもつ。

慈恵歯科医療ファッション専門学校に進学し、医療事務の基礎を学ぶ。

西尾市民病院に勤務。患者さんには、わかりやすく適切な説明を心掛ける。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



「ありがとうございます」
全力で過ごしてほしいです！

結果が成功でも失敗でも、
その挑戦する過程に価値がある



浅岡俊佑 さん (2005 年生まれ)
吉良高校 出身

企業
情報

株式会社サンスタッフ
豊田自動織機エンジニアリング
<https://www.sunstaff.co.jp>

——学生時代

「数学や化学が好きで、自主的に次の学年の内容を勉強していました。勉強が苦手な友達に教えたりもしていて、その友達のテストの点数を上げることが高校時代の趣味でした(笑)。実家がアルミで窓枠を組み立てる事業をしていたことがモノづくりに興味をもったきっかけ。実家の手伝いをしたときに、学んだ数学や化学の知識がつかなる場面もあり、それがモノづくりのおもしろさに初めてふれた経験でした」

——仕事について

「モノづくりのなかでも設計に携わりたいと思っていて、それを先生に相談していたんです。普通科だったので、基本的にはライン作業の求人しかないのですが、タイミングよく設計に携われる会社を紹介してもらったことができ、豊田自動織機グループの人材サービスと開発・設計請負を展開するサンスタッフに就職しました」

入社当初について教えてください。

「印象に残っているのは、軽トラにシエルを載せるキャンピングカーを、構想から設計、材料調達、組み立てまでおこなったことです。それをポートメッセのブースで展示し、来場者にコンセプトなどを説明しました。現在は豊田自動織機エンジニアリングで、CAE(コンピューターを利用した設計支援)を活用したデータ解析を担当しています」



現在の仕事内容を教えてください。

「走行中の自動車が何かに衝突してしまったとき、車内の人が致命傷に至らないよう、衝突実験をしてデータ解析をし、安全性を評価します。試験内容は、ダミーの乗客を乗せた自動車を正面から壁に衝突させたり、側面から自動車を衝突させたりして、エアバッグが機能しているか、衝撃を逃しているかを確認します。販売する国によって安全基準が異なるので、その条件を満たしているか、正しい試験内容になっているかを確認しながら検査します。みなさんが乗る自動車の安全性を担保することが私たちの仕事です」

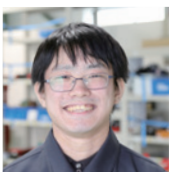
——やりがい

「届いた車両に計測器を取り付けたり、溶接して重量を調整したりするなど、車両安全性の実験は、準備や後処理がとても多いです。解析のために実験後の車両をバラバラに解体することもあるのですが、今までできなかった難しい作業がひとりでできるようになると、自身の成長を実感できてやりがいを感じます」

——メッセージ

「思っていることは、内に秘めるのではなく外に出すことが大事だと思います。私が今の仕事に就けたのも、『こういう仕事がしてみたい』という思いを先生に相談していたからです。まずは自分の思いを外に発信することから始めてみてください。そして、高校時代は何事にも興味をもって、とりあえずやってみることが大事です。みなさんにはいろいろなことに挑戦してほしい。結果が成功でも失敗でも、その挑戦する過程に価値があると思います」

ありがとうございました。



自分
の
数
字

18歳 実家の事業を手伝ったことがきっかけで、モノづくりに興味をもつ。

19歳 サンスタッフに就職。研修では、モノづくりの考え方などの基礎を学ぶ。

20歳 正確な検査を心がけ、安全性が担保された自動車づくりを支える。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>





竹下 諒

さん (2004 年生まれ)

豊橋工科高校 出身

企業
情報

豊橋鉄道株式会社

豊橋市駅前大通1-46-1 豊鉄ターミナルビル5F
https://www.toyotetsu.com

日々の仕事に取り組む

自分もなれるよう、

子供のころに憧れた運転士に

— 学生時代

「高校時代は、部活動と資格取得に力を入れていました。模型部と弓道部に所属し、特に模型部では鉄道模型やジオラマづくりに熱中しました。機械科だったこともあり、溶接や旋盤作業など、様々な機械を扱う実習も楽しかったです。旋盤技能士検定などの資格を取得することもできました」

この仕事をめざしたきっかけは？

「昔から鉄道が大好きな子供で、父と浜松を訪れた際、親切に話しかけてくれた運転士さんとの出会いが鉄道に関わる仕事に就きたいと思っただけです。手を振ってくれたり、汽笛を鳴らしてくれたり、そのときの光景は今でも覚えています。単純にかっこいいなあと思っただけで、自分も電車を運転したいと思うようになりました」

— 仕事について

「高校卒業後、豊橋鉄道に就職しました。1年目は車掌業務を担当し、切符の販売や車内放送、お客様から切符を集めるなどの仕事を経験しました。2年目からは、社内の鉄道運転士の選考試験に合格し、国家資格である動力車操縦者運転免許の取得に向けた勉強も始めました。時刻通りに電車を動かすための運転操作、車両構造や鉄道法規、異常時や故障時の対応などを学びます」

現在の仕事内容を教えてください。

「現在私は、渥美線を担当しています」



「時刻通りに電車を運転して安全に目的地までお客様をお運びすることが、鉄道運転士の使命です。マスターコントロール(マスコン)やブレーキを操作し、お客様に負荷がかからないように細かな配慮しながら運転をします。乗客数や天気によってもその感覚は変わるため、経験を積みながら技術を身につけていきます」

心がけていることは？

「車掌さんとの連携も大切で、常に協力しあう姿勢を大切にしています。私が心がけているのは、すべてのお客様に気持ちよくご乗車いただける電車にすること。その思いをもって、日々の仕事に取り組んでいます」

— やりがい

「お客様から、『今日もいい声で案内してくれてありがとう！』などの声をかけてもらえることやりがいを感じます。私が子供のころに憧れた運転士に自分もなれるように、日々の仕事に取り組んでいます」

— メッセージ

「鉄道運転士になるには、鉄道会社に就職して車掌を経験し、動力車操縦者運転免許を取得するための社内の選考試験に合格する必要があります。その後、運転士見習い期間を経て、ひとりで運転できるようになります。大切なのは、人間関係がいさつ、積極的に行動することです。この姿勢は、中学・高校時代からずっと意識して実践してきたことです。まず、『やるべきこと』をやる。『それを意識して学生生活を送ってください！』」



自分
の
年
代

18歳

模型部に所属し、鉄道模型やジオラマづくりに熱中した高校時代。

19歳

高校卒業後、豊橋鉄道に就職。車掌として勤務。

20歳

動力車操縦者運転免許を取得。時刻通りに安全に目的地へお客様をお運びする。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



未来に残していく

時を越えて紡がれた文化財を



二村優里奈さん(1997年生まれ)
岡崎西高校 出身

出身
大学

愛知学院大学
文学部歴史学科
<https://www.agu.ac.jp>



企業
情報

岡崎市役所

岡崎市十王町2丁目9番地
<https://www.city.okazaki.lg.jp>

——学生時代

「友人に誘われて愛知学院大学のオープンキャンパスに参加し、土器の拓本をとる歴史学科の体験が印象的で歴史や考古学に興味をもちました。もともと歴史の資料を見ることが好きだったこともあり、実際に専攻として歴史に関わるおもしろさを感じ、愛知学院大学歴史学科への進学を決めました」

大学時代のことを教えてください。

「授業では発掘調査の実践だけでなく、法律・技術的な知識も学びました。卒業論文では、九州の東名遺跡で出土した縄文時代の編みカゴについて研究しました。この学問がおもしろいのは、現在の私たちの生活にも、昔の人々の知恵が積み重なっていることを実感できることです。先人が残した大切な情報や記録を踏まえて次に生かすという考え方が自然と身についたと思います。在学中に、学芸員、図書館司書、社会教育主事補、考古学調査士などの資格を取得することもできました」

——仕事について

「岡崎市役所の社会教育課で学芸員として働いています。市内には岡崎城をはじめ、真宮遺跡や岩津城跡など多くの貴重な文化財があります。こうした文化財は、人々の営みや自然劣化によって徐々に失われていってしまうので、それらを保存して未来に残していくことが仕事です。主に私が担当しているのは、地



面の下に眠っている遺跡、すなわち埋蔵文化財。日々の業務では、埋蔵文化財包蔵地でおこなわれる土木工事の届出の確認や工事の立ち会い・試掘調査をおこないます。また、最近では学校や市民の方よりご依頼いただき、地域の歴史について等の出前講座を行っています」

心がけていることは？

「市民の声に耳を傾けることを大切にしています。専門用語も多く難しい内容もありますが、どのように伝えれば相手にわかりやすく届くかを常に意識しています。また、常に遺跡や周辺の情報を確認し、勉強を続けて知識を増やしていく姿勢を忘れないように心がけています」

——やりがい

「遺跡や文化財には、学術的な価値だけでなく、時を越えて紡がれた口マンもあります。失われてしまう可能性のあるこれらの財産を、次の世代に残していく一助になれることに大きなやりがいを感じています。また、工事業者の方から相談を受け、文化財と現代の暮らしが両立できる方法を提案し、理解を得られ

たときにもやりがいを感じます」

——メッセージ

「学芸員として働くには、大学で専門的な調査・研究のための知識を学び、国家資格である学芸員資格を取得する必要があります。みなさんには、いろんなことに興味をもち、何事も積極的にチャレンジしてほしいです。私がこの道に進んだきっかけは友人の誘いでしたが、あのとき前向きにチャレンジしてよかったです。大学入学後も、おもしろい先生や知識豊富な先輩に囲まれて楽しく学ぶことができました」

ありがとうございました。



18歳

↓
22歳

現在

自分
の
歩
み

友人に誘われて参加したオープンキャンパスがきっかけで、歴史や考古学に興味をもつ。

発掘調査を法律・技術的な視点で学ぶ。学芸員資格を取得する。

失われてしまう可能性がある文化財を次の世代に残すため、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

